

結婚の話に戻りますが、結婚とは男女の性欲を満足

させるためだけにあるものではありません。性欲は子孫を残すための動物としての本能のほうです。

その結果、子供を授かれば、次には子供を自立させる事（エサを自分でとる事ができるように）が子供を作った親の役目（本能）だったはずですよ。

はき違えた戦後の教育のために性欲を満たす事が先行してしまい、肝心の子供を自立させる段階を国（学校や保育所）に放り投げてしまった結果ですよ。

結婚式という儀式は親族や仲間たちに、これから子づくりと子育てに励みますと言う約束の場として意義があったのです。

その覚悟もないのに、性欲を満たす事だけに励んだ結果が「でちゃった結婚」では、大切な後の部分の「子育て」が抜けてしまい、義務感だけが残り、生まれてきた子どもが疎ましくなり、虐待につながっているのです。

■自然災害から家族を守る

最近各地で小規模な地震が連続して起っています。

この小さな地震が大震災につながる恐れは今のところないようですが、地震大国の日本ではどこが大地震の震源地になるか予測が付きません。

阪神淡路大震災、東日本大震災以前からも首都直下

型、東南海など太平洋側を震源地とする大地震発生の可能性が叫ばれ、そのための対策がいろいろ発表されています。そのほとんどが建物の耐震補強や大地震に耐えられる構造の建物や数十メートルの津波を防ぐ防波堤のかさ上げ建設など、天文学的な大予算を伴う対策です。これらは、今ある施設やそこに住む人たちの一部を救うことが出来る対策でしかありません。特に、津波の被害は地震による直接の被害より多くの被害者を出しました。

地震の予知は難しくても、津波の予知は簡単です。

津波は海からしか襲ってきません。人々の住まいを海